

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (静岡と世界を繋ぐマイプロジェクトコース)		訪問国	シンガポール	
学校名	静岡サレジオ高等学校	氏名	海野 桃花	学年	2年

「美味ららら」静岡ガストロノミーツーリズムの推進

問い：世界が求める静岡「ガストロノミーツーリズム」を実現するためには何が必要か？

【留学期間】2025.07.27～2025.08.17（22日間）

【受け入れ先機関】EF International Language Campus Singapore

【留学の動機】

数あるトピタテの魅力の中でも、私が特に惹かれたのは、留学のテーマを自分で自由に設定できる点でした。そこで私は、「自分の一番の強みは何だろう」と考えました。そして真っ先に思い浮かんだのが、「食べること」でした。調べていくうちに、静岡県が日本の食文化を形づくるうえで、非常に重要な役割を担ってきた地域であることを知りました。一方で、静岡県はコロナ禍以降、観光客数がコロナ前の約7割にまで落ち込んでいるという課題も抱えています。そこで私が注目したのが、「静岡ガストロノミーツーリズム」でした。「食」を通して静岡の魅力を世界に発信したい、そう考えるようになったのです。その実践の場として私が選んだのが、シンガポールでした。世界有数の多民族国家であり、美食国家としても知られるシンガポールで、静岡の「食」はどのように受け止められるのか。そこにはどのようなニーズがあるのか。それを自分自身の目で確かめたい。こうして私は、「食」をテーマにしたシンガポール留学に挑戦することを決意しました。



【留学前】

- ・静岡の伝統料理について作り方や歴史を学ぶ
- ・静岡「ガストロノミーツーリズム」について日本での浸透度調査を行う
- ・SNSを通じて静岡「ガストロノミーツーリズム」について発信する
- ・静岡「ガストロノミーツーリズム」を行っている団体にアポイントを取る
- ・シンガポールに留学経験を持つ友達に現地の食文化・生活様式について話を聞く
- ・シンガポールの多文化融合に至る歴史や文化を学ぶ

【留学中】

- ・ホストファミリーと一緒に日本食を作る
- ・語学学校で日本の伝統文化について紹介するイベントを開催する
- ・静岡・ガストロノミーツーリズムについて街頭調査を行う
- ・毎日 SNS で留学の様子を投稿する



【留学後】

- ・留学して体験したこと、トビタテ留学 JAPAN の活動などについて、レポートやパワーポイントにまとめて学校で発表する
- ・留学準備から留学中、そしてその後の活動を、SNS を使って発信していく
- ・富士市・富士宮市の中高校生で創られたラジオエフ部のパーソナリティとして、ラジオを通して静岡県の魅力を発信する
- ・在日外国人の方々を対象とした学習支援ボランティアにて静岡の食文化を共有する

【問いに対する答え】

私はこの問いに対して2つの答えを見つけ出しました。1つ目は、「静岡の食」を物語として伝える力を身につける必要があるということです。私たちは「なぜこの食が生まれたのか」や「暮らしとどのように結びついているのか」などの食文化の裏側まで知る必要があると強く感じました。2つ目は、「食べる」だけでなく「体験できる」ことの大切さです。食がどのように作られ、誰に支えられているのかを知る体験は、海外の人たちにとって新鮮であることに気づきました。体験できることは、私たちが自分たちの文化をより身近に感じるようになるきっかけにもなると思います。

【留学を通じて】

シンガポールで出会ったのは、宗教・文化・食習慣などの違いを超えて対話することの楽しさでした。異なる価値観を持つ人々と触れ合う中で、自分の中に新しい視点が次々と芽生えていきました。特に強く感じたのは、「食」と「笑顔」が持つ力です。言葉が不十分でも、美味しいものを囲んで笑い合えば、国や文化の違いを越えて自然と心を通い合わせることができます。これこそが人と人をつなぐ最強の共通言語だと強く実感しました。留学を通じて、国際交流の可能性を肌で感じ、自分の課題にも向き合えたことは、人生における大きな財産です。今後は、この経験を力に変え、さらに挑戦を続けていきたいと思っています。最後に、この留学を通して、数えきれないほど多くの方々に支えていただきました。現地で温かく迎えてくださった方々、共に学び、励まし合った仲間、そして常に見守り、背中を押してくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

